



〈参考資料〉 災害と歴史資料 : 水漏れ史料吸収乾燥ワークショップ(第1回「まちづくり地域歴史遺産活用講座」試行プログラム(2010.12.18-19実施)テキスト)

松下, 正和

(Citation)

歴史文化をめぐる地域連携協議会予稿集, 9:62-67

(Issue Date)

2011-01-30

(Resource Type)

conference object

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81002709>



災害と歴史資料

水濡れ史料吸水乾燥ワークショップ

講師 松下正和

まちづくり地域歴史遺産活用講座
 試行プログラム
 2010/12/19
 @県民交流会館

災害と歴史資料
 水濡れ史料吸水乾燥ワークショップ

松下 正和
 (神戸大学大学院人文学研究科特命講師)

はじめに


- 1.大規模災害から歴史資料を守る活動
 ~はじまりとひろがり
- 2.史料保全活動のサイクル
 ~救済・修復・仮整理・返却
- 3.史料ネットの活動をつうじて

※ 歴史資料は身近なところにたくさんあります！
 ※ 被害にあった史料を見つけた時の応急処置方法について学びます

1.大規模災害から歴史資料を守る活動

○活動紹介 ~「歴史資料ネットワーク」(略称・史料ネット)を中心に

- 1995年1月に発生した阪神・淡路大震災の被災地で、全国の歴史学会の支援のもと、被災自治体・地域住民と協力しながら、自治会や旧家など民間所在の歴史資料の救出・保全をおこなってきた、**歴史研究者・文化財担当職員・地域住民**を中心としたボランティア団体。
- 事務局 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1
 神戸大学文学部内 TEL&FAX: 078-803-5565
- e-mail: s-net@lit.kobe-u.ac.jp
- URL: <http://www.lit.kobe-u.ac.jp/~macchan/>
- ブログ: http://blogs.yahoo.co.jp/siryu_net/



大規模災害から歴史資料を守る


○史料ネットによる地震対応:

- 95年阪神・淡路大震災、99年台湾大震災、00年鳥取県西部地震、01年芸予地震、03年宮城県北部連続地震、04年新潟県中越地震、07年能登半島地震

↓ 04年は台風が10回上陸、風水害へも対応!

○史料ネットによる水害対応:

- 04年新潟・福井水害(→福井ネット設立支援)、台風23号(兵庫北部・京都北部での水損史料救済)
- 05年台風14号(→宮崎ネット設立支援)
- 09年台風9号→兵庫県佐用町・宍粟市で水損史料救済
- 10年台風9号→神奈川・静岡県境での被災地巡検

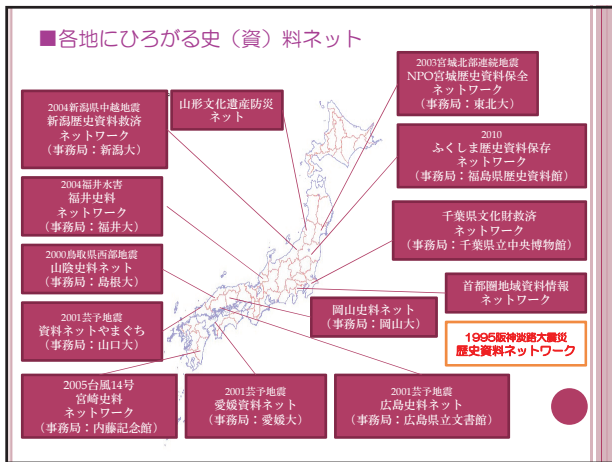


台風23号被災史料調査~兵庫県4市7町

調査地(日付)	被災発見例	対応
豊岡市(10/24,28)	水損1件(桜町M家) 未指定廃棄1件(同T家)	乾燥法の指導のみ
日高町(11/1,7,14,23,5/4,6/14)	水損2件 (岩中M家、浅倉T家、同T家)	3件レスキュー(2件は乾燥済、残り1件は但馬国府・国分寺館で保管)
西脇市・黒田庄町(11/4)	[水損1件(和田S家)]	[郷土資料館が乾燥]
西淡町・三原町・洲本市(11/6)	確認作業でせず	
但東町(11/6)	廃棄1件(坂津O家) 一部廃棄1件(奥赤K家)	モン博が一部受入
養父市(11/14,23)	全壊(青山O神社摂社)	被害状況を市教委に連絡
和田山町(11/14)	流失1件(竹田H寺) 水損1件(竹田S寺)	
出石町(11/18,19)	水損2件 (鳥居区有・日野辺区有)	日野辺のみレスキュー、乾燥済鳥居は乾燥法のみ指導

台風23号被災史料調査~京都府4市3町

調査地	被災発見例	対応
宮津市(12/1,1/12)	・流失1件(今福F家)	・宮津市歴史資料館に聞き取り
大江町(12/8,1/13)	・公文書水損	・日本の鬼の交流博物館・町教委に聞き取り
舞鶴市(12/22,1/5,12,2/10,17,20,23)	・水損2件(三日市区有、上東M家) ・廃棄1件(大川I家)	・三日市区有は現地吸水・乾燥作業済 ・上東M家文書は神大で成形作業済
加悦町(12/23,1/24)	[水損1件]	[町教委が乾燥]
京丹后市(1/6,31,2/9)	・水損2件(大宮町三重区有、久美浜町I家)	・久美浜町I家は京丹后市ふるさと歴史研究会会員宅へ搬出・レスキュー
福知山市(1/13,2/1)	・水損3件(土地区T家、T家、A家)	・土地区は留守宅にて未確認 ・A家は乾燥法のみ指導
野田川町(2/10)	・水損なし	



■予防ネット 被災前のネットワーク化

- 岡山...岡山大学文学部・岡山県立歴史資料館など
- 福島...福島県歴史資料館が中心「ふくしま歴史資料ネットワーク」が設立(2006.10)
- 山形...東北芸術工科大学が中心
- 千葉...千葉県博物館協会が中心

※災害が発生する前から、ネットワーク化をはかる動きの現れ

※大学(歴史・保存科学系)、行政(資料館・博物館)中心

史料ネットの活動

○災害時

- 地震や水害で被災した地域の文化財・歴史資料の保全活動 (例)被災史料
- 災害の記録自体の保全活動 (例)震災資料

○日常時

- 講演会、水損史料修復ワークショップなどの開催により地域資料の大切さをPR

■水損史料応急処置ワークショップの開催

- 地震による被災歴史資料とは異なる課題
＝水損・汚損歴史資料の劣化の速さ
(カビ・異臭)、水損処置の認知度の低さ
- “濡れても捨てないで!” “濡れても乾燥と応急処置による修復は可能!”とPR
- 史料の「救命士」の養成活動
救出・修復とともに廃棄を防ぐための予防的活動としての水損史料応急処置ワークショップ

大規模災害から歴史資料を守る

- 史料ネットのレスキュー対象(主に未指定文化財)
 - 古文書(崩した文字で和紙に書かれたものなど)
 - 古い和本(和紙に書かれて冊子にしてあるものなど)
 - 近代の古書、ノート、記録(手紙や日記等)、新聞、写真、絵画
 - 古い襖や屏風(下張りの古文書も含む)
 - 自治会などの団体の記録や資料
 - 農具、機織りや養蚕の道具、古い着物など、物作りや生活のための道具など
- レスキュー対象としての地域遺産＝“どこにでもあるけれども、そこにしかないもの”
 - 文化財に指定されているような著名なものだけが歴史資料なのではない。昔の人の暮らしぶりなど、地域や家の歴史を知る手がかりとなるようなものは全て歴史資料として救出・保全

2. 大規模水害時の史料保全活動
(参考) 2009年台風9号での水損史料保全活動

- 県教委からの連絡と事前準備
 - 8/9 21時台風9号発生
 - 8/10 土砂災害・河川氾濫などによる出水状況・道路被害などに関する情報収集を開始
 - 8/11 兵庫県教育委員会文化財室と連絡を取り合い、古文書の被害についての情報提供依頼と、要請が入り次第支援を行う旨を確認
 - 8/12 兵庫県教育委員会文化財室から電話。佐用町教育委員会藤木透氏よりレスキュー依頼ありとのこと
 - 8/13 佐用郡地域史研究会会長へ電話、お見舞いととも被災状況についての聞き取りをおこなう。
 - 佐用町内の民間所在史料に関する目録作り(河野)。巡回調査票の準備。
 - 8/14 宍粟市内の民間所在史料に関する目録作り(浅利)。被災地巡回時の配付チラシ作成(板垣)。
 - 水損史料保全資料の調達を進める一方で、ゼンリン住宅地図に所蔵者情報転記。

(参考)

2009年台風9号での水損史料保全活動

○ 活動日と参加人数 (24日・のべ189名)

- 第1回佐用 (8/15)
- 第2回佐用 (8/29-9/1)
- 第3回佐用・第1回穴粟 (9/3,4)
- 第4回佐用 (9/7)
- 第5回佐用・第2回穴粟 (9/9-10)
- 第6回佐用 (9/15)
- 第7回佐用・第3回穴粟 (9/18-20)
- 第8回佐用 (10/4,5)
- 第9回佐用 (10/12)
- 第4回穴粟 (10/17)
- 第10回佐用 (11/2,3)
- 第11回佐用 (11/21)
- 第12回 (12/20)
- 第13回佐用 (1/27) ...継続中



○ 民間所在資料の救出・応急処置・指導事例 (台風9号分)

- 佐用町中上月O家... 蔵と母屋から**近世・近代史料・民具資料・写真**を救出→送風・自然乾燥と屏風下張りはがし、写真の複製、和紙製資料の真空凍結乾燥
- 佐用町中上月T家... 離れの解体現場から**近代史料・屏風**を救出 → 送風・自然乾燥と下張りはがし
- 佐用町中上月M家... **書画類**についての処置方法レクチャー
- 佐用町上月民具保管庫... **民具**が水損 → 民具のカビ取りクリーニングと仮整理
- 佐用町役場... 1階部分水没により**行政文書**が水損。体育館にて乾燥 → 乾燥方法のレクチャー
- 佐用町立図書館... 1階部分浸水 → 他地域での復旧事例についてレクチャー
- 佐用町久崎日家... **近世・近代史料、アルバム、書画類**が水損 → 写真の複製、和紙製史料の洗浄、真空凍結乾燥
- 佐用町佐用Y家... **アルバム**が水損 → 写真の複製、固着プリントの展開
- 兵庫県宍粟市一宮町間賀地区... 区長宅で保管の**区有・自治会文書**が水損 → 公民館で自然乾燥、絵図の修復



2. 被災史料保全活動のサイクル

・ 地元の方々と巡回活動

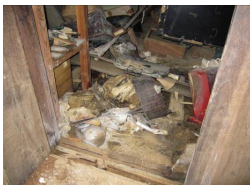
竹本会長と力万地区を巡回 (8/15)



町立図書館で被害聞き取り



・ 水損史料の救出



雨水や生活排水や蔵の土壁などにより、泥まみれになった古文書



ビニール袋につめて古文書を救出



解体された家屋の瓦礫の中から、地域に関係する史料や、救済に役立つ史料を救出

・ 水損史料の消毒

かたまりのまま保全した汚損史料



汚損古文書をエタノール消毒



・水損史料の応急処置
～分厚い帳面類や水濡れ程度のひどい場合

防かびのため、1点ごとにビニール袋に封入し冷凍保管

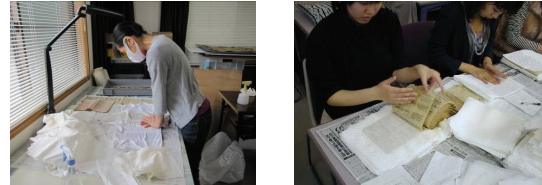
冷凍保管後、真空凍結乾燥



・水損史料の応急処置
～薄い帳面類や水濡れ程度が軽い場合

押し法

挟み込み法



安くて、早くて、簡単に！
いつでも、どこでも、誰にでも！
→水損史料修復ワークショップを開催

・水損史料の応急処置
～大量に水濡れ史料がある場合



エタノールで消毒後、史料に扇風機の風を当て続け送風乾燥

・水損史料の脱臭・簡易補修
～汚損史料の洗浄

汚損史料を不織布で挟む

少量の水で洗浄後、吸水乾燥、陰干しへ



・水損史料の脱臭・簡易補修
～史料の裏側から補修



和紙をちぎって毛羽立たせる

補修完成

和紙に糊をつけ裏から貼り付ける

・汚損史料の洗浄・脱臭

へらで固着展開後、一紙ごとに解体して精製水で洗浄し、乾燥後、もとの綴じ紐で綴じ直す



①固着展開後、和紙製のラベルを一紙ごとに添付した後、撮影し、一紙ごとに解体

②濡らせた不織布の上に史料を載せ、精製水を噴霧しある程度皺を伸ばして、その上から不織布を被せる

③不織布の上からさらに精製水を噴霧する

④刷毛で不織布の上からなでる

洗浄時に出てきた汚染水

⑤セームタオルの上に不織布ごと史料を載せ、スポンジで吸水乾燥

⑥粗方の水分を吸水乾燥できたら史料の上の不織布をはいで、仮張りの要領で乾燥

⑦乾燥が終了したら、史料の下の不織布をはいで、一紙の状態にする

⑧元通りに綴じ直す

・史料の撮影・整理（仮目録の作成）

史料の表紙をデジカメ撮影

パソコンに史料の表題・年代情報を入力し一覧表化

・所蔵者へ史料の返却

生活が落ち着いた頃を見計らって所蔵者へ史料返却

展示会や講演会で成果を地元へ還元

・蔵の解体などともない、所蔵者による保管が困難場合は、寄贈・寄託先を斡旋

■住民の満足度

- 「台風直後は家の中もめちゃくちゃで古文書どころではなかったが、傷んだ史料を修復するのも大変な作業と思う。歴史研究に役立てばうれしい」（日高町浅倉Tさん、2004年11月28日付け産経新聞）
- 「おかげさまで文書はよみがえりそうだ。今後も集落の歴史を目に見える形で伝えたい」（舞鶴市三日市Sさん、2005年2月18日付け朝日新聞）
- 「区に代々伝わってきた文書を水につけてしまい申し訳ない気持ちだった。修復してもらえ本当にありがたい」（同上、2005年2月18日付け京都新聞）

↓

家の歴史・集落の歴史の保全が、復興時の心の支えに

29

■2009年台風9号での水損史料保全活動

- 被災史料の保全だけを目的とするのではなく、あくまでも災害復興・生活復興の一環として
 - 台風9号被害に際しては、佐用町の職員や住民、宍粟市の住民から史料ネットヘルプデスク要請が入る
 - ←以前から佐用町職員と史料ネット事務局メンバーとが「顔なじみ」
 - 新聞報道を見て連絡
 - ←所蔵者のみなさんの史料を残そうとする意志の表れ 公共財としての記録
- 兵庫県教育委員会（文化財室・歴史博物館・考古博物館）との連携
 - 被災市町への協力通達、被災市町の情報提供、真空凍結乾燥機手配
- 県・佐用町教育委員会、町内の区長・所蔵者、大学、歴史学会の協力があってはじめて保全活動が可能！

3. 史料ネットの活動を通じて

- 史料ネットのレスキュー対象
 - ・ 主に民間所在の未指定文化財
 - ・ 文化財に指定されているような著名なものだけが歴史資料なのではない！



昔の人の暮らしぶりなど、**地域や家の歴史を知る手がかりとなるようなものは全て歴史資料**として救出・保全

「地域歴史遺産」という概念の登場

どこにでもある

けれども、そこにしかないもの

■「地域遺産」を対象とした史料ネットの活動

- コミュニティーの維持と密接な関係がある歴史文化
 - ・ 「史料や文化は人につく」
 - ・ 人が歴史文化（とその基盤となる集落）を救い、歴史文化（とその基盤となる集落）には守られる！
(例)新潟県中越地震 山古志村での牛追い行事の復興にたずさわった人の言葉「私は牛を守ろうとしたけど、牛に守られたのかもしれない...」
- 地域の歴史資料を守る意義
新たな歴史像の構築／歴史文化を活かした復興／日々の暮らしやまちなみの再生へ

→被災史料の保全だけを目的とするのではなく、あくまでも**被災者の生活復興の一環**として

■史料ネットの活動が守る「時間」

- 「歴史資料」を滅失の危機から守る＝「過去」を守る活動
- 自然災害にあった被災者の生活復興＝「現在」を守る活動
- 「歴史文化」を守り伝えていく地域社会の維持・形成＝「未来」を守る活動



被災地の「過去」-「現在」-「未来」を守る活動

「時間」(＝歴史)に携わるプロとして、自分たちの専門知識・技術を使って社会の中で果たすべき役割

■史料ネット活動から見えた課題

- 大学の課題
 - ・ 実際の活動の担い手はOD層、非常勤研究員、任期付き助教・講師など**不安定な身分**
 - ・ 業績主義によりボランティア活動をしている暇のない若手たち
 - ・ 文化財防災・救済に関する講座ほとんどなし
- 被災地の行政の課題
 - ・ **自ら被災**する可能性も(本人、家族、職場、来館者...)
 - ・ **防災指令**が出ると動きたくても動けない
 - ・ まずは**指定文化財が優先**。未指定の民間所在史料は後まわしにならざるをえない(法的義務もなし)
 - ・ **自治体合併**や、予算縮小による正規職員の減少、嘱託・非常勤職員の増加

■史料ネット活動から見えた課題

- 住民の課題
 - ・ 基礎コミュニティ存続の危機
 - 自治体合併による**基礎コミュニティの弱体化・減少**
 - 幕末8万余町村→明治22(1889)年市制町村制15,859市町村→昭和の大合併3,472市町村→平成の大合併**1,727市町村**(市786・町757・村184、2010年5月・総務省IPより)
 - ・ 基礎コミュニティの解体、過疎化、高齢化に伴う**記憶継承力の低下**
 - 1886(明治19)年 氷上郡人口 70,934人
 - 2009(平成21)年 丹波市人口 70,810人
 - ・ 地域における歴史文化の**人的・財政的基盤の縮小**
 - 中高の社会科教員の多忙化、郷土史家などのかつての担い手が減少
 - ・ 災害時だけでなく日常時にも**滅失する地域の歴史資料**
 - 度重なる自然災害(地震・風水害など)による地域の歴史資料の廃棄・流失・売却
 - 代替わりや家屋・蔵の解体・立て替えなどによる歴史資料の廃棄・売却

災害時にみえた地域の歴史遺産のあり方は、日常時にはらむ問題を提起→行政、大学、住民それぞれが「わがこと」として考える体制作りを！

おわりに ～ひとりひとりが今できることは？

- まずは地区の歴史、地域遺産、被災歴史資料の応急処置を**知ることから**
 - ・ まち全体で文化財を認識・継承するためには、「まず知ること」からスタート
 - ・ 資料化 価値を付与することで単なるモノから歴史資料に→現代人の目/過去の人々が大切にしていたもの/将来大切になるであろうという視点(100年、1000年単位の保存・活用)
- 次の世代に**伝える**
 - ・ 普段からの取り組み 地区の歩みを語り継ぐ
 - ・ いざという時には 自分で守る 専門家に相談する、頼る
- 地域の活性化、まちづくりに向けて
 - ・ 地域の良さや守るべきものの発見 地域づくりの糧に

まちづくり
地域歴史遺産活用講座
試行プログラム
2010.12.18-19
テキスト

発行
神戸大学大学院人文学研究科
地域連携センター

2010年12月18日発行

まちづくり地域歴史遺産活用講座 試行プログラム 2010.12.18-19

主催 神戸大学大学院人文学研究科

共催 香寺町史研究室・福崎町教育委員会

後援 兵庫県教育委員会・姫路市教育委員会